

てからの減価問題に依る固有鉄道既業員のゼネストの危機、北九州交通のストライキ等、何れも労務的なから大産業を中心とするストライキの發展が將未資本主義を燒く業火とならぬ事を何人が保障し得やう。

斯くの如きが既三期恐慌の下にある日本資本主義の現勢をみる、経済的恐慌の全般の危機への成熟は、政治的には内閣に對する野黨闘争の激化、外に向つては帝國主義戦争の危機が、日本資本主義は歴史的必然の方向へ歩一歩近づきつつある。

四 一般闘争方針

内外の客觀的状態は、強く吾々労働階級の進歩を促して止まざるものがあるがその主体勢力の微弱さと、ブルジョアジイの必死のな改革に對して従つて消極的な防禦戦を布くのみにて、積極的な攻撃戦に移り得ざる状態にある。

日本労働運動の缺陷は、一言に要約するならば組織力と闘争力の不振にある。第一に大%激に過ぎざる程度に低き組織率、而もその組織労働者が、必要以上の政治的意見の相違や感情的利己的の幹部間の混張主義や、整理合同の努力の不足によつて幾多の組合に小さく分割され、其間對立抗争を激成して居る事、第二に壓制的多数の未組織労働者の組織の閉却と、特に日本資本主義の心臓とも言ふべ

き大産業に組織、進まざる点、第三に血吸労働者。意識化訓練化の不足、第四に個々の経済闘争を全般的な闘争に擴大發展し得ざる点、凡そ其等は日本労働運動の偽らざる実情であり、而して強力に克服せねばならぬ傾向である。

特に強調を要する一矢は、左翼労働組合主義、右翼労働組合主義に依つて経済戦線を覆乱分裂せしめてある事である、之等は組織の擴大の上にも、闘争の勝取の上にも、従つて致命的な損失を與へる以外の何物もない。

合法的な組織を以てすべし社會民主主義改良主義的なりと断じ、闘争の基礎を大衆との同様に置かず、困難にして忍耐を要する組織闘争を閉却してひたすら革命的言辭を唱へ焦燥的行動に終始する極左翼主義の善悪更に之等の模倣を以て激闘的戰士なりとして自らを慰める一派等の行動の誤れるは言ふ迄もないが、労働階級の日常利害獲得の闘争を労働階級解放の終局目標と結びつけるを理解せず、而してそれ等を労働階級の果敢なる実力闘争の過程に於て獲得せんとせず、合法的行動とは常に支配階級との妥協と接衝による事と誤認せる右翼主義の誤謬も亦之を非せねばならぬ。

吾々は當面の最大の闘争目標を労働階級に共通な利害の爲の闘争を戦はんが爲の戦線統一、組織の擴大、闘争力の充実に置かねばならぬ。

其等の一般的な闘争方針をより具体的に示せば次の如くであらう。